

「つきゆび基金」設立に思いを寄せて

泉さん、及び、ウィークタイさんとの出会いによって冊子としての「つきゆび倶楽部」はこの世に生を受けることが出来ました。ウィークタイさんには感謝の思いしかありません。そして、せめてもの恩返しと思い、売上の一部をウィークタイさんに寄付させていただいております。

「寄付」という形をとっていますが、私の感覚としては「投資」に近いものです。

私は高知県に住んでいることもあり、活動にはほとんど参加は出来ていませんが、ウィークタイさんの活動理念や活動内容がとても好きです。そして何よりも関わっている人たちが大好きです。

その上で誤解を怖れずに言うならば、ウィークタイさんがこの世に存在しているという事実があれば、あとのことは「どうでもいい」という感じです。

「なんでもいい」という言い方も出来るのですが、「なんでもいい」というのは私がウィークタイさんに許可を与えている感じがするのです。

だから、もっともっと自由な「どうでもいい」であり、「ウィークタイさんの好きなようにお金を使ってもらってええですわー」というのが私の正直な気持ちです。

活動には参加出来なくても、私には直接的に利益が無くとも、ウィークタイさ

んが「この世に存在してくれている」という事実だけで救われる部分があります。安心できます。勇気をもらえます。少し心が豊かになれます。

ウィークタイさんは僕にとって遠くにあるけれど、確実に存在する居場所のひとつなのだろうと思います。だからこそ「投資」なのです。存在がありがたいのです。

「つきゆび」という言葉に対して私は「柔らかい」イメージを持っています。「優しい」イメージを持っています。

その感覚を人に押し付けるつもりはありませんが、ウィークタイさんにとって、そしてまだ見ぬ誰かにとって「つきゆび基金」が柔らかく優しい「何か」の一助になることを遠く高知から願っています。

下田 つきゆび